Living the LOTUS
Buddhism in Everyday Life
1
2019
VOL. 160

開祖随感

身についた習慣の力

たとえば柔道の投げ技にしても、また野球のバッティングやゴルフのスイングにしても、「こうやるんだ」と教わって、すぐ、そのとおりやれるものではありませんね。毎日、繰り返し繰り返し練習して自分の身について初めて、試合でその技が出てきます。

信仰も同じで、理屈は一度聞けば分かりますが、それを本当に自分のものにするには、毎日毎日の行が欠かせません。とかく人は、その気さえあればなんでもできるように錯覚しがちなのですが、習慣の力の大きさを忘れてはならないのです。

よい習慣も悪い習慣も、それが身につくと、人の意志も、判断力も、その人の人生までも支配してしまいます。よい習慣が身につくと、ことさら意識して努力しなくても、やすやすと事が成っていきます。逆に、悪い習慣がついてしまうと、自分の意志に反してずるずると引きずられていってしまうのです。

毎日出会う人、出合うことに対する見方、考え方、行動が自然に教えにかなうようになっていく習慣づけがどんなに大切であるかが分かります。習い性にしてしまうその訓練の場がサンガであり、道場なのです。

（『開祖随感』9　p. 30-31）

Living the Lotus
2019年1月号（Vol.160）

【発行】立正佼成会 国際伝道部
〒166-8537　東京都杉並区和田2-7-1
普門メディアセンター3F
Tel: 03-5341-1124
Fax: 03-5341-1224
E-mail: living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

編集責任者: 齋藤高市
編集チーフ: 鈴木健祐
校閲者: 竹谷祐市郎、小坂和正、菊池克之
編集スタッフ: 国際伝道部スタッフ

立正佼成会は1938年に庭野日敬開祖、長沼妙佼脇祖によって創立された、法華三部経を所依の経典とする在家仏教教団です。家庭や職場、地域社会の中で釈尊の教えを生かし、平和な世界を築いていきたいと願う人々の集まりです。
現在は庭野日鑛会長とともに、私たち会員は仏教徒として布教伝道に励みながら、宗教界をはじめ各界の人々と手をたずさえ、国内外でさまざまな平和活動に取り組んでいます。

Living the Lotus—Buddhism in Everyday Life（法華経を生きる～生活の中の仏教）というタイトルには、日々の生活のなかに法華経の教えを活かして、泥水に咲く美しい蓮の花のように、人生を豊かに、そしてより価値あるものにしていきたいとの願いが込められています。本誌を通じて、世界中の人々に日々の生活のなかで活かす仏教の教えをお伝えします。

会長法話

みんな善の根っこをもっている

立正佼成会会長　庭野日鑛

乾いた根に潤いを与える

新年、おめでとうございます。本年も、ともどもに心楽しく、ひたすらに仏道を歩んでまいりましょう。

みなさんはいま、それぞれの誓願を胸に、晴れやかな気持ちで、さらなる精進を期しておられることと思います。

それでも、なかには事情があって心が晴れず、「前向きな気持ちになれない」という人がいるかもしれません。

これは、若いころに病気に罹って、生涯その病とつきあっていかなければならないと告げられたある人が聞かせてくれた話です。将来を悲観して自暴自棄になりかけていたとき、その人が信仰の先輩から繰り返し伝えられたのは、「あなたには善根が具わっている」という言葉だったそうです。

ところが、そう励まされているうちに、自分の存在価値を否定する気持ちや、人生に対する悲観的な見方が消えて、「自分も人のために何かしたい、できるのではないか」という心がふつふつとわいてきたというのです。

私たちが読誦する法華三部経のなかの無量義経に、「衆生の諸有の善根を潤漬し」（徳行品）とあります。善根とは、善い果報をもたらす土台となる根っこのことですが、「だれにも仏と同じ性質が具わり、みんな仏のあらわれである」ということを示す「仏性」と同じ意味あいと、私は受けとめています。ですから、だれもが善根をもっているといえるのです。ただ、その根っこが健やかに育ち、伸びるには、乾いた根に活力を与える潤いが欠かせません。

人生に絶望し、自己否定するばかりの若者にとって、「あなたにはかけがえの

ない善根があるのですよ」と、自分の根幹を肯定してもらえたことは、まさに、かさかさに乾いていた根に、惜しみなく、たっぷりと潤いが与えられるに等しいことだったはずです。

その人はいま、かつての自分と同じように悩み苦しむ人の善根を潤し、仏の功徳を普く弘めるお役に務めています。

ほんとうの「正定聚」に

無量義経の一節は、先の「善根を潤漬し」のあと、「善の種子を布いて功徳の田に遍じ」と続きます。「世のため人のために尽くす行為の本になる、善の種子をたくさん播こう」――要するに、「仏の教えを伝えて、自分も人も一緒に幸せになろう」と、「布教伝道」を説いているのです。

「善の種子を播く」というのは、多くの人の乾いた善根に潤いを与えることと同じだと思いますが、では、なぜここで「布教伝道」が説かれるのかといえば、理由は一つです。

前述した若者のように、仏の教えを聞いて心の根が潤い、迷いの淵から抜けだしたあとには、「ほかの人も、自分と同じように苦悩から離れ、目の前の幸せに気づいてほしい」という慈悲の心が、とめどなくわきあがるからです。

では、その「布教伝道」のあり方はというと、悩み苦しんでいた先の若者も、初めから素直に仏の教えが受け入れられたわけではないでしょう。その意味で、私たちにとって大切なのは、まず「身近な人の善き縁になろう」と願って生きることです。人を思いやるやさしい言葉や態度が、苦しむ人の乾いた心の根に潤いを与えるのですから。

そのうえで、私たちは読経供養や仏さまの教えの習学など日々の基本信行を実践しつつ、仏教に縁のない人の手をとっていく。それが、先の経文の結びとなる「普く一切をして菩提の萌を発さしむ」（あらゆる人に仏の悟りを目ざす心を起こさせる）という最高の生き方につながるのです。

このようにして、みんなが「仏さまのようになりたい」と決意した仲間――ほんとうの意味の「正定聚」になることを前提に、私の大学の恩師が「布教なくして宗教なし」といわれました。私たちは、救いを求めるすべての人にとって、いつでも心安らぐ「正定聚」でありたいと思います。

（『佼成』2019年1月号）

一瞬一瞬を大切に生きる

デイビッド・ローズ
オクラホマ教会

この体験説法は、2018年11月1日に大聖堂で行なわれた布薩の日ご命日式典で発表されたものです。

私の信仰体験は10年前に遡りますが、いままでそれを説法原稿にまとめる気持ちにはなれませんでした。立正佼成会では体験説法が大切なことはわかっていますが、家族のことに関して自分の感情を言葉にしてお話しすることは簡単ではなかったからです。

第二次世界大戦終結から3年後の1948年、私はアメリカ空軍の軍人家庭に生まれました。パイロットの父は数年ごとに勤務地が変わり、家族も転居を繰り返す生活が続きました。米国内だけでなく、1960年代前半には青森県の三沢基地や東京の府中基地、そして1970年には台湾のアメリカ大使館に勤務したこともありました。数年ごとの転校、友達との別れ、海外を含めた引っ越しを繰り返す生活には、「すべては一時的なもの」という雰囲気が常に漂っていました。そんな生活の中、家族のまとめ役をしてくれたのは母でした。私が学校から帰ると、母はいつも家で待っていてくれました。

大聖堂で説法するローズ氏

若い頃、私は将来の進路で迷ったことは一度もありませんでした。高校卒業後は、父と同じ道を目指して大学の空軍士官養成課程に進みました。しかし、私が入学して間もなく、父は搭乗していた飛行機が墜落して亡くなりました。父の死による喪失感は非常に大きなものでしたが、パイロットという目標に向けて気持ちが揺らぐことはありませんでした。

1972年、パイロット養成課程を終了して間もなく結婚しましたが、結婚生活は長くは続きませんでした。任務のため別居生活が続いたことが一番の原因でした。当時は苦しい思いをしましたが、幼い頃から引っ越しを繰り返していた私にとって、何かを手放すことは自然なりゆきに思えました。いま振り返ると、このときの喪失の体験なくしては、その後の人生の展開もなかったように思えます。

数年の空軍での任務を経て、後に妻となるジャンと出会いました。ジャンは私の良き伴侶として、親友として、そして信仰のパートナーとして、35年の日々を共に過ごすことになりました。私たちは1982年に結婚し、お互いの勉強や仕事を大切にしながら、基地から基地へ転勤生活を続けました。

私は妻の影響で精神生活に関心を持つようになりました。精神的な探究心というよりも、いつも妻と一緒に新しいことに挑戦したいという思いからでした。一方、妻は生きることの意味を求め、様々な道の探究を続けていました。妻も私もクリスチャンの家庭で育ちましたが、本来私たちが道を求めるべきキリスト教は、私にはなかなか理解できませんでした。その後もキリスト

教について学ぼうとしましたが、やはり自分とのつながりを感じることはできませんでした。

私が仏教に興味を持ち始めたのは1992年に空軍を退役し、民間のパイロットとしてサウスウェスト航空に就職した頃でした。禅に関する本を読み、内容がとてもわかりやすかったことを覚えています。それがきっかけとなり、私は面白そうな仏教書を見つけては、毎晩関心のあるページに目を通してから眠りにつく、いわゆる「ナイトスタンド・ブディスト」になりました。その後、妻と私は、友人たちと一緒に合気道の道場で禅の瞑想を定期的に行なうようになりました。

それからの12〜13年間、私は仏教関係の本を何冊も読み、特定の団体には入らずに、時々瞑想を実践していました。2005年の春、それまでずっと精神的探究を続けていた妻が、近所の友人たちと立正佼成会オクラホマ教会を訪問しました。ほどなく私も教会を訪れ、私たち夫婦はすぐに佼成会の会員になりました。

佼成会に入会して2年後の2007年6月、妻に食道がんが見つかりました。病名をインターネットで検索すると、回復の困難な病気であることがわかりました。私たちはこの新たな現実をしだいに受け入れながらも、ショックを受けたまま週末を過ごしました。しかし、月曜日の朝を迎える頃には、私たちは何が起きようと二人でしっかり向き合っていこうと決心していました。

その年の夏、妻の放射線治療が始まりました。治療の途中、水を飲み込むことさえ非常に苦痛に感じるようになり、妻は入院して治療を続けることになりました。さらに、抗がん剤治療による体力の消耗と吐き気にも苦しみました。私はそれまで以上に妻の支えになろうと決心しました。

9月には、食道と胃の大部分の摘出手術を受けるため、妻と私はヒューストンにあるアンダーソン癌センター向かいました。手術の前夜、私は妻の手を取りながら、それまで将来のことを思い悩みながら、まるで妻がもう私の前から消えてしまったかのような錯覚にとらわれていたことに気づきました。妻と過ごす時間を大切にするためには、一瞬一瞬をしっかり生きなければならないことに気づいたのです。単純なことのようですが、その時の私にとっては大きな経験でした。

翌日、手術を待っているあいだ、妻と私は大きな困難を前にしても、リラックスして、静かに「いま生きている」ことを実感していました。私たちがこのように変わることができたのも佼成会と法華経の教えに出会えたおかげさまです。

合併症のため、手術は12時間に及びました。しかし、手術中や手術後2週間のあいだ、これまでの修行によって私たち夫婦にたくさんの変化が起きていることを実感しました。苦難は続いていても、過去にとらわれたり将来に不安を抱いたりせず、日々をあるがままに受け入れる力をいただけたことに感謝しました。

手術から数年間、妻の検査結果は良好で、私たちは教会での修行に一生懸命取り組みました。

サウスウエスト航空で最後のフライトを終えたローズ氏と妻のジャンさん

クリス・ラドソー教会長さんの勧めで、妻は夜間法座を受け持たせていただくことになりました。また、マインドフルネスやメディテーションを経験したことのあるアメリカ人のために、仏教入門として、夫婦で坐禅と経典読誦の両方を組み込んだ「瞑想の集い」も始めさせていただきました。

2009年、私は勤めていた航空会社を早期退職し、我が家で妻と二人で過ごせる時間が増えました。その頃はまだがんの再発はありませんでしたが、手術の影響で妻の体調は思わしくなかったのです。私はクリス教会長さんから依頼され、教会での根本仏教の講義を引き継ぐことになりました。講義の担当は現在も続けさせていただいていますが、私にとってすばらしい経験になりました。仏教の奥深さに驚き、人さまに教えを説明するためには、まず私自身により深い仏教理解が必要であることに気づかされました。

それからの数年間、死に関する問題は私の心から常に離れませんでした。2013年には妻の体調が悪化し、その年の秋には2度目の手術を受けるため3週間の入院生活を送ることになりました。そのとき私の頭に浮かんだのは「すべての苦は自らの快楽を求めることから生まれ、すべての幸福は人の喜びを願うことから得られる」という、7世紀のインド仏教僧シャーンティデーヴァの言葉でした。その言葉どおり、自分のことを忘れ妻の助けになろうと努めたとき、心が安らいでいることに気づいたのです。

2015年、妻のがんが再発し、もう治癒は望めないことがわかりました。診断を受ける前から妻は再発に気づいていました。激しい痛みに苦しむ姿に、新たに抗がん剤治療を始めるまで妻は生きられないのではないか不安でした。教えを本で学ぶことは簡単でも、日常生活で実践することがいかに難しいか思い知らされました。翌年、妻が亡くなるまで、私たちは喜びと悲しみを二人で分かち合いながら毎日を過ごしました。自宅で家族と共に過ごした妻の最後の二週間を含め、こうした日々を送れたことは、私たちにとって幸運でした。

妻の人生の最後の一年間、そして妻亡き後のこれまでの数年間、私がこうして生きてこられたのは、人の支えとなり平常心を養う仏教の実践なくして考えられません。教えの実践があればこそ、妻と私は日々の苦しみの中で、支え合いながら生きることに安らぎを得られたのだと思います。しかし、普段どおりの日々も、いつしか尽きることを心の奥で感じていました。

妻が亡くなってからの数か月は、私には最もつらい時期でした。夜、教会から帰宅する車中で、いつも妻に「いまから帰るよ」と電話していたこと。いまは明かりが消え、待つ人のいない家。妻に買い物はないか聞くために立ち寄ったスーパー。そして、人生の苦楽を分かち合う人を喪った寂しさなど、さまざまな記憶や思いが胸に迫り、私は苦しみました。

死の意味、あるいは大切な人を喪うことの意味は、経験して初めて理解できるものだと実感しました。ご著書『心田を耕す』の中で会長先生は「人生最大の苦である『死』を超えるのは、無常の法の認識以外にありません。死を見つめ、いまいのちあることに感謝しましょう」と仰っています。

数年前、最初に読んだ時は、その意味を十分に理解してはいませんでした。しかし、妻の死を経験したことで、苦というものは人生の中で避けて通るべき異常事態ではないということが、徐々に理解できるようになりました。苦はむしろ人生の本質であって日常の当たり前の出来事であり、苦を受け入れることで私たちは変化し、自分たちに与えられた時間がいかに貴重で短

いものであるか常に忘れずに、毎日の身の周りの喜びに気づくことができるのです。

開祖さまは、「悟りとは出会いから生まれるもの」と仰いました。私はいま世の中を見るとき、この言葉をお手本にしています。教会でもスーパーでも、自分がしっかりと意識してさえいれば、毎日新たなご法の出会いをいただく機会が生まれるのです。

生老病死など様々な苦との出会いは人生の当たり前の出来事であり、拒絶したり、いつまでもこだわったりすべきものではないことを、私はようやく受け入れられるようになりました。私にとって苦との出会いは、ものごとの見方を変え、生き方を変える機会であり、人生を感謝で受けとめる機会だったのです。

この世にいのちを与えてくださった両親に、私は心から感謝しています。そして私を教え導いてくださった家族や友人たち、その他の多くの方々にも感謝の気持ちをお伝えさせていただきます。

そして、長年にわたり私を支え励ましてくださったクリス・ラドソー教会長さん、ヒルデブランド靖子前教会長さんに感謝の気持ちをお伝えさせていただきたいと思います。お二人の支えと励ましのおかげさまで、私は今日この場に立たせていただくことができました。

最後に、私にオクラホマ教会の教務部長のお役を与えてくださったことに対し、感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。講義や教材の作成、そして次代を担うリーダーの育成や指導に関わることで、長い間の数々のご恩に対し、お返しをさせていただくことができます。

如来寿量品に、「毎に自ら是の念を作す　何を以てか衆生をして　無上道に入り　速やかに仏身を成就することを得せしめんと」という一節があります。私はこの一節を自らの誓願とさせていただき、これまでずっと心のなかに持ち続けてまいりました。それができましたのも、お役をいただいたおかげさまと、心から感謝申し上げます。

みなさま、ありがとうございました。

教会で行われた研修に参加したオクラホマ教会の会員たち

法華三部経
各品のあらましと要点

妙法蓮華経
信解品第四（１）

信と解

この品の表題である〈信解〉の、〈解〉というのは理解ということで、理窟から推していって「なるほどそうだ」と頭の中で割りきることをいい、〈信〉というのはその理解がすっかり心に定着して「そのとおりだ」と少しも疑わなくなった状態をいいます。

普通学問とか技術とか、そのほか実生活上のさまざまな知識などは、まず理解し、それを正しく（理論に合ったように）実行していけばよいように考えられていますが、ただそれだけでは世のいとなみは円滑にいかないのであって、どうしても〈信〉の要素がなくてはなりません。

早い話が、われわれが日常使っている掛け算の九九にしても、たとえば、なぜ「八九、七十二」になるかなどと、いちいち考えて計算をするわけではありません。小学生の時、教えられて理解した九九の理に基づき、それが真実だと信じこんでいますから、なんの疑いもなく「七九、六十三」「八九、七十二」などと言葉で唱えてすらすらと計算します。真理であり、真実であるかぎり、それでいいのです。いや、それでなくてはならないのです。

ましてや、宗教の教えになりますと、この〈信〉ということが絶対の要素となってくるのです。仏教は、現代の科学とも一致する筋道の立った教えですから、先ず理解することが大切ですが、それだけでは不十分なのです。その理解が深まることによって、強い感激が生まれ、歓喜が湧き、心の底からその教えにすがりつくような気持になってこそ、初めて〈真実の救い〉が実現するのです。そういった心の状態を信心といい、信仰というのであって、仏教がいくら理性的な教えだからといっても、やはりそれを信仰し信心するところまでいかなければ、その真価は発揮されないのです。

さて、《譬諭品第三》の説法によって、舎利弗に続いて完全な信解に達したお弟子たちができました。須菩提・摩訶迦旃延・摩訶迦葉・摩訶目犍連の四人です。何を完全に信解したのかといえば、《方便品》で暗示的に説かれた、〈人間はひとしく仏性を具えており、だれでも仏になれるのだ〉ということと、〈仏さまはさまざまな方便を用いて教えを説かれるけれども、つまるところはすべての人びとに自分自身の仏性を自覚させ、仏の境地を悟らせてくださるという一事に帰するのだ〉ということです。

四人は、ただ心の中に悟ったばかりでなく、「このように悟りました」と、詳しくお釈迦さまのおん前に表白するのです。これが大切なことであって、自分の信仰体験は、人に向かって発表することによってますます強固なものになり、完全なものになるものです。

この四人を代表し、摩訶迦葉がお釈迦さまに対して行なった体験発表が、これまたたくみな譬諭によるものであり、〈長者窮子の譬え〉といって法華経に一つの花を添えるものであります。それは、次のような話です。

長者窮子の譬え

「幼い時に父の家からさまよい出で、放浪の身となった男がありました。五十歳にもなるまで他国をさすらい、貧しい暮らしを続けていましたが、しかし、老いの影がしのびよるにつれて、足は不思議にも父のいる場所へ向かっていくのでした。

父のほうでは、独り子を失ってたいへんに悲しみ、方ぼう探し歩きましたが、どうしても見つかりません。仕方なく、ある町に住みついていました。莫大な財産をもち、立派な邸宅に住んでいました。

息子は、さすらいの果てに、たまたまその町へやってきて、父の屋敷の前を通りかかったのです。何か仕事をさせてもらえないものかと、中をうかがえば、国王かとも見まがう立派なお方が、大勢の召使いにかしずかれていて、あたりの様子もたいそうおごそかです。

その男は、なんとなく恐ろしくなってきました――とても自分などがやとってもらえる家ではない。まごまごしていると、つかまえられて無理やり働かされかねない、やはり自分にはここは向いていない――そう考えて、急ぎ足に立ち去ろうとしました。

一方、長者の父は、かた時も忘れたことのない面影です。門前にたたずむみすぼらしい男がまさしく自分の子であることが、ひと目で分かりました。さっそく召使いに命じて、連れて来させようとしました。ところが、親の心を知ろうはずもない息子（窮子）は、殺されるのではないかという恐怖感から、召使いの手をふりきろうともがいたあげく、気を失ってしまいました。

そのありさまを見ていた父は、無理に連れて来るのをやめさせました。そして、しばらく日がたってから、窮子のところへ、みすぼらしいなりをした二人の召使いをやり、『汚いものを掃除する仕事だが、賃金は普通の倍もらえる口があるが、どうだ』と誘いをかけさせ、屋敷の中へ引き入れることに成功しました。長者は、自分も汚い姿となって子の警戒心を解きながら、そばに近づき、やさしい言葉や励ましの言葉をかけてあげ、ついに仮の子ということにしてしまいました。

窮子のほうは、その待遇をうれしくは思うのですが、自分にはふさわしくないという気持はいつまでも抜けません。父は、やがていろいろな仕事をさせるようにし、ついには全財産を管理する支配人に取り立てました。窮子は忠実に働き、立派にその役を果たすのですが、それでもまだ自分はいやしい身の上だという意識は捨てきれませんでした。

そうしているうちに、窮子の卑屈な心も次第次第に薄れてきました。そこで、自分の死期が近づいたのを知った父は、国王をはじめ町の主だった人びとを集め、『この男こそわたしの実子です。わたしの全財産はこの子のものです』と発表しました。

窮子は、その時はじめて、この大長者がほんとうの自分の父であったことを知り、父の無限の財産がそのまま自分のものであることが分かり、かぎりない喜びにひたるのでありました」

（庭野日敬著『法華三部経　各品のあらましと要点』
佼成出版社, 2016年 [初版　1991年], p. 57-63）

Director's Column

ほんとうの「正定聚」に

新しい年がスタートしました！私にとっても2年目のスタートです。本年も「感謝と菩薩行」をテーマに精進させていただきます。

会長先生は、佼成1月号のご法話で、改めて「布教伝道」の大切さをお示しくださいました。すべての人々に己の尊さに気づいていただくために、相手を思いやる言葉がけや態度で善き縁となっていく――悩み苦しむ人々にとって心安らぐ一人ひとりになっていくことの大事を教えていただきました。

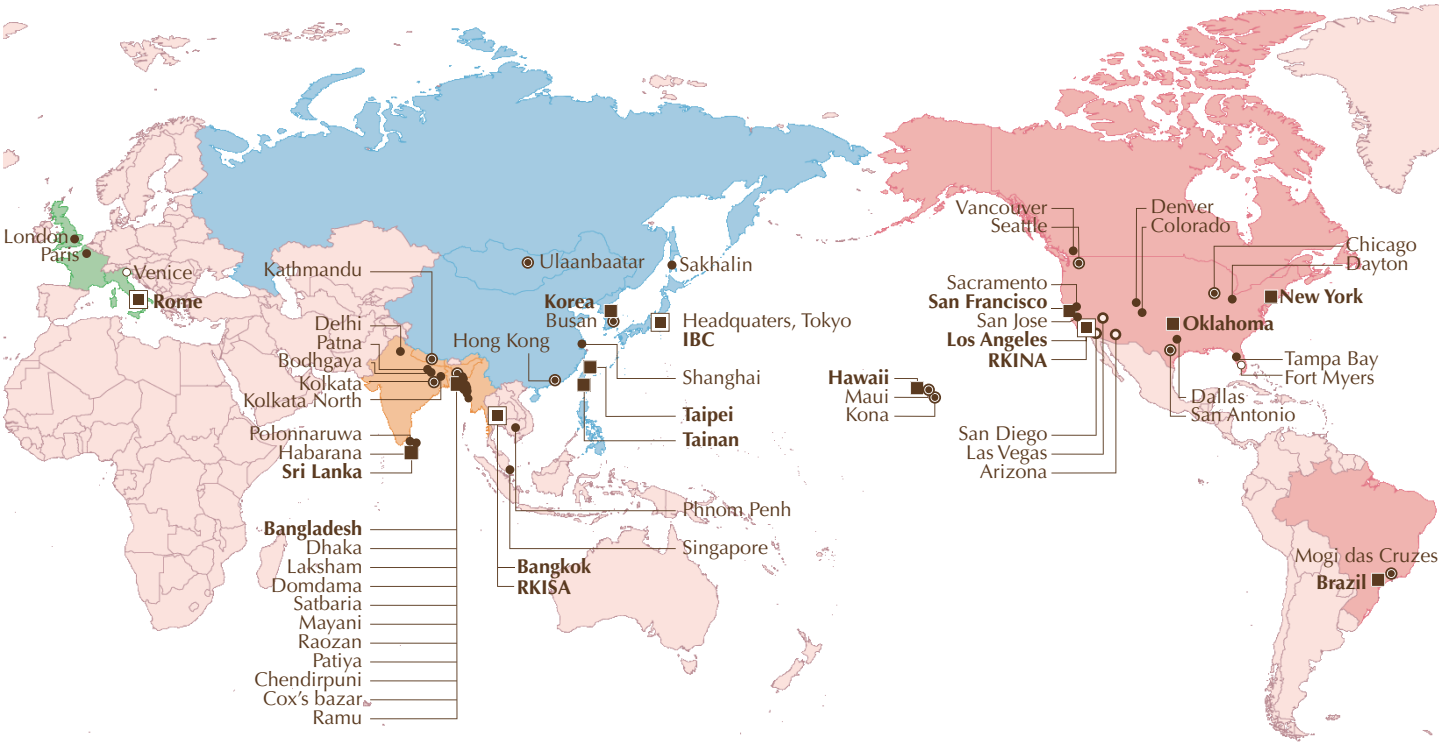
今年は、全米布教60周年ですが、同時に、海外布教・国際伝道の60周年でもあります。「布教伝道」の原点に立ち返り、「法華経のみ教えによって、世界中の人が救われるように」との使命を全世界のサンガの皆さまと共有し、真の「正定聚」を目指して布教伝道に歩ませていただきたいと思います。

本年もよろしくお願いいたします！

国際伝道部長
齋藤 高市

Living the Lotus では、皆さんのご意見・ご感想を募集しています。
お問い合わせは、以下のEメールアドレスにお願い致します。
Eメール：living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

Rissho Kosei-kai: A Global Buddhist Movememt



Rissho Kosei-kai International
Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo, Japan
Tel: 81-3-5341-1124 *Fax:* 81-3-5341-1224
e-mail: living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

Rissho Kosei-kai International of North America (RKINA)
2707 East First Street, Suite #1, Los Angeles, CA 90033, U.S.A
Tel: 1-323-262-4430 *Fax:* 1-323-262-4437
e-mail: info@rkina.org http://www.rkina.org

Branch under RKINA

Rissho Kosei-kai of Seattle's Buddhist Learning Center
28621 Pacific Highway South, Federal Way, WA 98003 U.S.A.
Tel: 1-253-945-0024 *Fax:* 1-253-945-0261
e-mail: rkseattlewashington@gmail.com
http://buddhistlearningcenter.org/

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Antonio
6083 Babcock Road, San Antonio, TX 78240, U.S.A.
P.O. Box 692148, San Antonio, TX78269, U.S.A
Tel: 1-210-561-7991 *Fax:* 1-210-696-7745
e-mail: dharmasanantonio@gmail.com
http://www.rkina.org/sanantonio.html

Rissho Kosei-kai of Tampa Bay
2470 Nursery Road, Clearwater, FL 33764, U.S.A.
Tel: (727) 560-2927 *e-mail:* rktampabay@yahoo.com
http://www.buddhismtampabay.org/

Rissho Kosei-kai of Vancouver

Rissho Kosei-kai Buddhist Church of Hawaii
2280 Auhuhu Street, Pearl City, HI 96782, U.S.A.
Tel: 1-808-455-3212 *Fax:* 1-808-455-4633
e-mail: info@rkhawaii.org http://www.rkhawaii.org

Rissho Kosei-kai Maui Dharma Center
1817 Nani Street, Wailuku, HI 96793, U.S.A.
Tel: 1-808-242-6175 *Fax:* 1-808-244-4625

Rissho Kosei-kai Kona Dharma Center
73-4592 Mamalahoa Highway, Kailua-Kona, HI 96740 U.S.A.
Tel: 1-808-325-0015 *Fax:* 1-808-333-5537

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Los Angeles
2707 East First Street, Los Angeles, CA 90033, U.S.A.
Tel: 1-323-269-4741 *Fax:* 1-323-269-4567
e-mail: rk-la@sbcglobal.net http://www.rkina.org/losangeles.html

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Arizona
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Colorado
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Diego
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Las Vegas
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Dallas

Rissho Kosei-kai of San Francisco
1031 Valencia Way, Pacifica, CA 94044, U.S.A.
Tel: 1-650-359-6951 *Fax:* 1-650-359-6437
e-mail: info@rksf.org http://www.rksf.org

Rissho Kosei-kai of Sacramento
Rissho Kosei-kai of San Jose

Rissho Kosei-kai of New York
320 East 39th Street, New York, NY 10016 U.S.A.
Tel: 1-212-867-5677 *Fax:* 1-212-697-6499
e-mail: rkny39@gmail.com http://rk-ny.org/

Rissho Kosei-kai of Chicago
1 West Euclid Ave., Mt. Prospect, IL 60056 U.S.A.
Tel : 1-773-842-5654 *e-mail:* murakami4838@aol.com
http://rkchi.org/

Rissho Kosei-kai of Fort Myers
http://www.rkftmyersbuddhism.org/

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Oklahoma
2745 N.W. 40th Street, Oklahoma City, OK 73112 U.S.A.
Tel: 1-405-943-5030 *Fax:* 1-405-943-5303
e-mail: rkokdc@gmail.com http://www.rkok-dharmacenter.org

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Denver
1255 Galapago Street, #809 Denver, CO 80204 U.S.A.
Tel: 1-303-446-0792

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Dayton
425 Patterson Road, Dayton, OH 45419 U.S.A.
http://www.rkina-dayton.com/

Risho Kossei-kai do Brasil
Rua Dr. José Estefno 40, Vila Mariana, São Paulo-SP,
CEP 04116-060 Brasil
Tel: 55-11-5549-4446 / 55-11-5573-8377 *Fax:* 55-11-5549-4304
e-mail: risho@terra.com.br http://www.rkk.org.br

Risho Kossei-kai de Mogi das Cruzes
Av. Ipiranga 1575-Ap 1, Mogi das Cruzes-SP,
CEP 08730-000 Brasil
Tel: 55-11-5549-4446 / 55-11-5573-8377

Rissho Kosei-kai of Taipei
4F, No. 10 Hengyang Road, Jhongjheng District,
Taipei City 100, Taiwan
Tel: 886-2-2381-1632 *Fax:* 886-2-2331-3433
http://kosei-kai.blogspot.com/

Rissho Kosei-kai of Tainan
No. 45, Chongming 23rd Street, East District,
Tainan City 701, Taiwan
Tel: 886-6-289-1478 *Fax:* 886-6-289-1488

Korean Rissho Kosei-kai
6-3, 8 gil Hannamdaero Yongsan gu, Seoul, 04420,
Republic of Korea
Tel: 82-2-796-5571 *Fax:* 82-2-796-1696
e-mail: krkk1125@hotmail.com

Korean Rissho Kosei-kai of Busan
3F, 174 Suyoung ro, Nam gu, Busan, 48460, Republic of Korea
Tel: 82-51-643-5571 *Fax:* 82-51-643-5572

International Buddhist Congregation (IBC)
Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo, Japan
Tel: 81-3-5341-1230 *Fax:* 81-3-5341-1224
e-mail: ibcrk@kosei-kai.or.jp http://www.ibc-rk.org/

Branches under the Headquarters

Rissho Kosei-kai of Hong Kong
Flat D, 5/F, Kiu Hing Mansion, 14 King's Road,
North Point, Hong Kong, Republic of China

Rissho Kosei-kai of Ulaanbaatar
15F Express tower, Peace avenue, khoroo-1, Chingeltei district,
Ulaanbaatar 15160, Mongolia
Tel: 976-70006960 *e-mail:* rkkmongolia@yahoo.co.jp

Rissho Kosei-kai of Sakhalin
4 Gruzinski Alley, Yuzhno-Sakhalinsk
693005, Russian Federation
Tel & Fax: 7-4242-77-05-14

Rissho Kosei-kai Friends in Shanghai

Rissho Kosei-kai of South Asia Division
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang
Bangkok 10310, Thailand
Tel: 66-2-716-8141 *Fax:* 66-2-716-8218

Rissho Kosei-kai International of South Asia (RKISA)
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang
Bangkok 10310, Thailand
Tel: 66-2-716-8141 *Fax:* 66-2-716-8218
e-mail: thairissho@csloxinfo.com

Branches under the South Asia Division

Rissho Kosei-kai of Delhi
77 Basement D.D.A. Site No. 1, New Rajinder Nagar,
New Delhi 110060, India

Rissho Kosei-kai of Kolkata
E-243 B. P. Township, P. O. Panchasayar, Kolkata 700094,
West Bengal, India

Rissho Kosei-kai of Kolkata North
AE/D/12 Arjunpur East, Teghoria, Kolkata 700059,
West Bengal, India

Rissho Kosei-kai of Bodhgaya
Ambedkar Nagar, West Police Line Road
Rumpur, Gaya-823001, Bihar, India

Rissho Kosei-kai of Kathmandu
Ward No. 3, Jhamsilhel, Sancepa-1, Lalitpur, Kathmandu,

Nepal

Rissho Kosei-kai of Phnom Penh
#201E2, St 128, Sangkat Mittapheap, Khan 7 Makara,
Phnom Penh, Cambodia

Rissho Kosei-kai of Patna
Rissho Kosei-kai of Singapore

Thai Rissho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang
Bangkok 10310, Thailand
Tel: 66-2-716-8141 *Fax:* 66-2-716-8218
e-mail: info.thairissho@gmail.com

Rissho Kosei-kai of Bangladesh
85/A Chanmari Road, Lalkhan Bazar, Chittagong, Bangladesh
Tel & Fax: 880-31-626575

Rissho Kosei-kai of Dhaka
House#408/8, Road#7(West), D.O.H.S Baridhara,
Dhaka Cant.-1206, Bangladesh
Tel & Fax: 880-2-8413855

Rissho Kosei-kai of Mayani
Mayani(Barua Para), Post Office: Abutorab, Police Station:
Mirshari, District: Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Patiya
Patiya, sadar, Patiya, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Domdama
Domdama, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Cox's Bazar
Ume Burmese Market, Main Road Teck Para, Cox'sbazar,
Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Satbaria
Satbaria, Hajirpara, Chandanish, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Laksham
Dupchar (West Para), Bhora Jatgat pur, Laksham, Comilla,
Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Raozan
West Raozan, Ramjan Ali Hat, Raozan, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Chendirpuni
Chendirpuni, Adhunagor, Lohagara, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Ramu

Rissho Kosei Dhamma Foundation, Sri Lanka
No. 628-A, Station Road, Hunupitiya, Wattala, Sri Lanka
Tel: 94-11-2982406 *Fax:* 94-11-2982405

Rissho Kosei-kai of Habarana
151, Damulla Road, Habarana, Sri Lanka

Rissho Kosei-kai of Polonnaruwa

Branches under the Headquarters

Rissho Kosei-kai di Roma
Via Torino, 29-00184 Roma, Italia
Tel & Fax: 39-06-48913949 *e-mail:* roma@rk-euro.org

Rissho Kosei-kai of the UK
Rissho Kosei-kai of Venezia
Rissho Kosei-kai of Paris